

小野町に移住した方をご紹介します、町の魅力を再発見することを目的に連載してきた当コーナーは、今月号で最終回となります。

先月号では、定年後の暮らしを考えた末にUターンしたご夫婦をご紹介します。

今月号は、福島県内の故郷へUターンした後、お仕事の関係で小野町で暮らし始めたご夫婦にお話を伺いました。

角田淳也さん、尚子さんご夫妻（谷津作行政区）

◆福島県にUターンする前は、どちらにお住まいでしたか？

東京で13年ほど暮らしていました。
小野町で暮らし始めて1年になります。

◆なぜ東京からUターンしようと思いましたか？

仕事の都合で子どもと過ごす時間が少なく、もっとのびのびとした環境で子どもを育てたいと思っていました。妻が病気になったときに、親が上京して子どもをみてくれましたが、子育てをするには親が近い方が良いと考えるようになりました。

◆小野町の印象はいかがですか？

学校と地域とのつながりが強いと感じています。学校行事などにとっても協力的で集まる人数が多いことに驚きました。また、ご近所の方に野菜をいただいたり、雨の日に洗濯物を取り込んでもらったりして、ありがたみを感じています。

◆田舎での子育てについてどう感じていますか？

川で遊んだり、雪が降った日にそり遊びをしたりと、東京ではできなかった遊びができ、子どもたちものびのびしています。保育園も人数が少ないので、

密度の濃い保育を受けることができると思います。

一方、都会では選択肢の広い教育が可能であり、都会ならではの良さもあります。都会と田舎、子育てに関してはそれぞれ異なった良さがあると思っています。

でも、子ども自身は、小野町での暮らしを気に入っているようなので、そんな様子を見ると小野町に来て良かったなと感じます。

お仕事でお忙しい中、家族の皆さん全員で取材に応じていただきました。2人の息子さんたちは、帰りに元気に手を振ってくれました。笑顔がとても素敵なご一家でした。

ご協力いただきありがとうございました。

・・・最後に・・・

約1年半にわたり連載してきた当コーナーでは、総勢16組の移住した皆さんにお話を伺いました。

移住のきっかけや町での暮らし方は様々ですが、皆さんに共通しているのは、理想のライフスタイルを追求する姿勢でした。

取材にご協力いただいた皆さんに、改めて紙上よりお礼申し上げます。

ふるさと暮らしセミナーを開催しました！



熱心に話を聴く参加者

2月14日、町と小野町ふるさと暮らし支援センターは、東京銀座において、小野町ふるさと暮らしセミナーを開催しました。

セミナーでは、町の概要や支援体制、支援センターの活動紹介などを行いました。田舎暮らしに関心のある首都圏在住の方々21名が参加しました。また、先輩移住者との懇談会や個別相談会も行い、参加者の中には具体的に移住の検討を始めている方もいました。

支援センターの活動は全国的にも注目されており、今年度は、山形県朝日町や宮城県丸森町、福島県南相馬市の視察研修地として選定されました。また、国学院大学や東京大学大学院の研究室の教授や学生が訪れる機会もありました。

今後も、町と支援センターでは、田舎暮らしを希望する方の支援を積極的に行います。地域の皆さんのご理解とご協力をお願いします。